

東日本大震災津波救援・復興県民会議だより

連絡先
いわて労連内
No.1
2011.7.12

「救援・復興県民会議」結成総会 200名を超える参加で開催



議案提案を行う鈴木いわて労連議長

7月9日（土）、午後1時半から盛岡市勤労福祉会館大ホールにおいて「東日本大震災津波救援・復興岩手県民会議」結成総会が200名を超える参加者のもとで開催されました。

結成総会は、下机都美子岩商連事務局長の司会のもと、最初にこの会議の結成よびかけ人6氏を代表して加藤善正（県生協連会長理事）さんが開会挨拶、記念講演は佐藤隆雄（大船渡出身、安全・安心な社会創造研究所代表）さんが「東日本大震災の応急対応から復旧・復興を考える」と題して行いました。

被災地から・団体から12氏が報告



報告を熱心に聞く会場のみなさん

講演後、座長に佐藤一則自治労連委員長を選出そして、次の12氏が報告をしました。陸前高田市藤倉市議、大船渡漁協新沼理事、東日本大震災両磐連絡会菊地さん、宮古市・佐々木さん、よびかけ人の前川慧一さん、胆江地区共同対策本部・佐藤さん、山田町・大杉さん、県医労中野委員長、陸前高田市職労阿部さん、県保険医協会畠山事務局長、よびかけ人の東さん、最後に大槌町阿部町議が発言をしました。それぞれの報告内容は、東日本大震災津波の生々しい被災当時の状況や被災者支援活動の取り組み、生活と生業（なりわい）の基盤回復をすすめる上で現行制度の問題がうきぼりとなる貴重な話でした（今後、この「県民会議だより」に、各氏からの報告内容を随時紹介をしていきます）



写真集を作成して報告する宮古・佐々木さん

目的と運動などの「申し合わせ」案、代表世話人8氏など「役員名簿」案、「結成アピール」案を採択

総会の議案提案（申し合わせ案と役員名簿案）を鈴木いわて労連議長が行い、全体の拍手で採択。「結成アピール」を中村いわて労連事務局次長が読み上げて提案し、拍手で採択されました。総会は、よびかけ人を代表して渡辺喜代子（岩手県母親大会連絡会会長）さんが閉会挨拶を述べ、予定より30分以上かかって終わりました。

◆地元県産材活用、「医・職・住」が基本



パワーポイントで講演する佐藤隆雄さん

記念講演講師の佐藤隆雄さんは、災害発生時からの政府の支援が全く不十分だったと厳しく指摘した上で、遠野市の後方支援を評価。入居が始まっている応急仮設住宅が、大手プレハブ協会によってプレハブで建てられていることにふれ、1軒当たり400万円のコストがかかり、しかも、住みにくい問題がある、解体時に1軒当たり100万円のコストという無駄な経費がかかると指摘。その上で、住田町が独自に始めた地元県産材を使用した木造づくりの仮設住宅は1軒当たり250万円のコストで建つ、そして木の香り、ぬくもりが感じられ、ペットと一緒に暮らせる、さらに地元木材の活用で雇用も見込まれると強調。

復興の原則で、佐藤さんは「医・職・住」が基本だと話しました。まちづくり何よりも医療が重要と指摘、そして被災者の当面の就業と収入確保が大切。そのために被災した中小企業を支援する基金制度など必要だが、使いやすい制度でなければならないと強調し、能登半島地震や中越地震の復興の教訓を紹介しました。

最後に、生活再建を第一義的に考え、現実を踏まえながら、夢と希望が語られる場（集落単位など）づくりを、高台移転を含む公営住宅建設は柔軟な発想も取り入れて実行すべきと話しました。

◆救援・復興県民会議「申し合わせ」(要約)◆

1. 名称

東日本大震災津波救援・復興岩手県民会議
(略称 救援・復興岩手県民会議)

2. 目的と運動

- ①東日本大震災津波の救援・復興の一点で共同し、各界・諸団体など幅広い結集をめざす。
- ②被災者全体を視野に入れた住民の生活再建、住民が主人公のまちづくりを基本とした救援・復興の共同した取り組みを行う
- ③被災者・被災地の実態と要求をふまえ、学習・交流、シンポなどの開催、県民的レベル・各分野の救援・復興活動に関するアンケート調査・政策活動、県や国などへの要求運動を推進する
- ④救援・復興岩手県民会議の要求と一致する政党と協力・共同関係を密にし、救援・復興活動をすすめる

3. 構成と運営

- ①目的と運動に賛同する団体や地域組織、個人で構成する
- ②年1回総会を開催。総会で年間方針・予算を協議・決定。また、代表世話人・常任世話人・世話人、会計監事(2)を選出する
- ③代表世話人・常任世話人・世話人で構成す世話人会を置く。年2回程度開催し時々の方針を協議・決定する。
- ④代表世話人・常任世話人で構成する常任世話人会を置く。随時開催し、総会や世話人会の決定にもとづき会の日常運営を担う。そのために互選で事務局長を選出し事務局を置く。

4. 事務局

- ①事務局は、事務局長、事務局次長、事務局員で構成する。
- ②事務局を浅沼ビル(盛岡市本町通2-1-36)内に置く。

5. 財政

- ①参加団体や個人からの賛同募金と会費で賄う。
- ②会費は団体(一口月額千円)、個人(一口年額千円)とする。
- ③会計年度は8月1日から7月31日とする。

救援・復興県民会議結成総会で

★個人会員6名が加入

★寄せられた募金額は77,321円

◆救援・復興県民会議「役員」の紹介◆

1. 代表世話人（8人）

- 東 幹夫氏（日本科学者会議岩手支部代表幹事、長崎大学名誉教授）
- 加藤 善正氏（結成よびかけ人）
- 佐々木良博氏（自由法曹団岩手支部事務局長）
- 中里 長門氏（前陸前高田市市長）
- 新沼 治氏（大船渡漁協理事、大船渡民商会長）
- 箱石 勝見氏（岩手県保険医協会会長）
- 前川 慧一氏（東日本大震災被災者の生活再建めざす釜石・大槌の会代表、釜石地域革新懇事務局長）
- 渡辺喜代子氏（岩手県母親大会連絡会会長）

2. 常任世話人（10人）

- 尾形 文智氏（岩手民医連会長）
- 金野 耕治氏（いわて労連事務局長）
- 久保田彰孝氏（岩手県農民連会長）
- 斉藤 信氏（日本共産党県議）
- 佐藤 一則氏（岩手自治労連委員長）
- 渋谷 靖子氏（新婦人の会県本部会長）
- 鈴木 露通氏（東日本大震災県共同対策本部長）
- 中野るみ子氏（岩手医労連委員長）
- 藤沢 光一氏（岩商連会長）
（岩手県革新懇）

3. 世話人（順不動）

- 高橋 八郎氏（県社保協会会長）
- 富岡 朗氏（新建岩手支部代表）
- 佐々木徳司氏（岩手私教連委員長）
- 菅原 瞳氏（婦民ク盛岡支部支部長）
- 中里 勤氏（岩手県国公議長）
- 渡辺 基氏（岩手農民大学学長）
- 小杉 正夫氏（国民救援会県本部会長）
- 森本 俊雄氏（盛岡労連議長）
- 及川 三郎氏（個人・陸前高田共同支援センター）
- 宇部 武典氏（個人・野田村村議）
- 佐藤 正文氏（胆江労連議長）
- 立花 昌幸氏（郵産労盛岡支部支部長）

千田 広幸氏（個人・岩手県学童保育連絡協議会）

※ 世話人の追加については、世話人会において新たな加入団体・個人から選出させていただきます。

4. 会計監事（2人）

- 下机都美子氏（岩商連事務局長）
- 吉田 博氏（岩手民医連事務局長）



議案を全体の拍手で採択

◆救援・復興県民会議「結成アピール」◆

本日（7月9日）、盛岡市内において「東日本大震災津波救援・復興岩手県民会議」（略称 救援・復興岩手県民会議）を結成しました。結成総会は、東幹夫（日本科学者会議岩手支部代表幹事）・加藤善正（岩手県生活協同組合連合会会長理事）・中里長門（前陸前高田市市長）・箱石勝見（岩手県保険医協会会長）・前川慧一（釜石地域革新懇事務局長、東日本大震災被災者の生活再建めざす釜石・大槌の会代表）・渡辺喜代子（岩手県母親大会連絡会会長）の6氏の結成よびかけに応え、被災地を始め多くの方々の参加のもとで成功しました。

未曾有の災害発生から4か月近くが経過しました。県内の被災地では応急仮設住宅への移行とともに、「結露、湿気がひどい」など住みやすい住宅を求める声が出ています。県立高田高校が全壊す

るなど小中・高校の学校施設が甚大な被害を受けたために、スクールバスによる仮校舎や他校での分散授業となるなど厳しい教育環境が続いています。また、福島原発事故による放射能汚染も県内の牧草地まで広がり、その影響に対する不安が広がっています。しかしながら、こうした被災地がたいへんな事態に置かれているにもかかわらず、松本龍復興担当相が自らの資格が問われる暴言により就任9日目に辞任するなど政府対応への怒りは高まる一方です。

私たち救援・復興岩手県民会議は「被災地の声が届いていない」という現状を直視し、何よりも被災者・被災地本位の復旧・復興づくりをめざす運動を被災者一人ひとりの苦難に寄り添ってすすめます。破壊された生活と生業（なりわい）の基盤回復のために国が責任を果たすことを求めます。岩手県の「復興基本計画（案）」には被災した高田・大槌・山田の3県立病院の再建が明記されていない問題や、三陸縦貫道など従来型の大型開発優先など看過できない問題点もあります

こうした立場から、結成後に以下の取り組みをすすめます。

- ① 被災者の生活と生業（なりわい）の基盤の早期回復を最大の課題とし、復興のすすめ方は被災地を無視した上からの青写真押し付けは許されないという立場で復旧・復興をめざします。
- ② 岩手県が公表した「復興基本計画（案）」のパブリックコメント（7月末まで）への取り組みをよびかけるとともに、被災者・被災地の要求にもとづいて県要請を行います。
- ③ 被災地へのボランティア活動など支援の取り組みについて連携をはかりながら強めていくとともに、学習・交流会、シンポジウムなどを開催します。また、被災地における実態調査をすすめる取り組みにも協力を行うなど提言づくりに参加します。
- ④ 宮城県、福島県の復興支援・共同センターなど、被災3県の連携をはかりながら住民が主人公の復興、地域医療・福祉・教育、経済の再生をめざし取り組みます。

⑤ 福島原発事故の早期収束と東電や国からの全面賠償、放射能汚染問題への対応を求めます。原発からのすみやかな撤退と自然エネルギーの本格的導入をめざし運動します。

救援・復興の一点にもとづく幅広い結集をめざすとともに、被災者に希望が見える真の復興をめざして運動をすすめましょう。

2011年7月9日



開会挨拶を行う加藤善正結成よびかけ人



座長就任挨拶を行う佐藤自治労連委員長



閉会挨拶を述べる渡辺喜代子結成よびかけ人